

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1 岐阜県のあらし	岐阜県とはどのような県か課題を意識することができる。	<p>1 岐阜県について事前に収集してきたものや調べたことについて交流する。 ・鶴飼い ・首都移転候補地 ・飛騨高山 <単元を貫く課題> ふるさと岐阜県の10年後の未来を考えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">岐阜県の現状を知ろう。</div> <p>2 岐阜県を調べる視点を分類する。 ・自然環境（気候、地形から） ・地勢（人口、面積、交通などから） ・産業（農業、工業、観光業などから） ・文化（祭り、方言などから） 3 自然環境、地勢についての全体学習。 4 長良川が4つ星に輝いた新聞記事を見ての感想を述べる。</p>	<p><アー> 岐阜県の地形を白地図に山脈、平地、揖斐川、木曾川、長良川を色分けして書きこみ、岐阜県の特徴を山と川に着目して述べている。</p> <p><場面> 学習活動3の後 授業後</p> <p><方法> 白地図への記述</p>	<p>調べてきた岐阜県</p> <p>地図帳「中部地方」 岐阜県白地図 新聞記事(河川通信簿)</p> <p>援助：地図帳、自分で色を塗り気づいた岐阜県の様子について、山と平野と川に着目するよう助言する。</p>
		飛山濃水の岐阜県であることが地図を眺めてよく分かった。岐阜県を流れる長良川が4つ星に輝いたなんてすごい。もっと長良川について調べてみたい。		
2 清流 長良川	岐阜県の豊かな自然の一つである長良川の特徴をつかむことができる。	<p>1 長良川、木曾川、揖斐川の3つの川の比較から長良川の特徴を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">岐阜を代表とする長良川を人々はどのように生かしているのだろう。</div> <p>2 3つの流域の写真から、長良川での人々の暮らしの様子を発表する。 ・上流では鮎釣りをしている人がいるが、川がとてきれいだることが分かる。 ・中流の両岸にはホテルや旅館がある。何のためにあるのだろう。 3 清流長良川（鶴飼い）のVTRを見る。 4 観光客数の推移のグラフを見て気づいたことを発表する。</p>	<p><ウー> 統計資料について項目内容、単位、年次の3点に着目して、観光客数の変化を的確に読みとっている。</p> <p><場面> 学習活動2の後</p> <p><方法> ノートの記述</p>	<p>自作地図帳 「飛山濃水」</p> <p>長良川の3つの写真</p> <p>VTR「清流長良川」 観光客推移表（自作）</p> <p>援助：年次、数値など具体的に発言できるよう助言をする。</p>
		観光客数が減ってきてても伝統を守る面と、観光として発展させていくことどちらが今の鶴飼いに大切なのだろう。		
3 川を生かす 鶴飼い	長良川での鶴飼いの現状を知り、自分の考えを持つことができる。	<p>1 観光客数の推移について前時の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">観光を発展させるか、伝統を守るか、どちらを優先させることがいいと思うか</div> <p>2 <観光を発展> ・バリアフリー船の開発など力を入れている岐阜市の取り組みは価値あることであると思う。費用をかけてでも観光客を増やす努力をするべき。 <伝統を守っていく> ・一つの漁としての鶴飼いを大切にしていけるべき。観光客が増やすことばかりとられるのはどうかと思う。 3 乗船前の鶴匠による「鶴飼い説明」のVTRを見る。 4 鶴飼いを発展させるために活躍している船頭さんを紹介する。</p>	<p><イー> 岐阜県の伝統的な鶴飼いが観光化を進めるか、伝統を守り通すかで揺れている現状を知り、自分ならどちらの考えを進めるのか、立場を明らかにして述べるができる。</p> <p><場面> 学習活動2の後 授業後</p> <p><方法> 発言内容 ノートの記述</p>	<p>鶴飼い観光パンフレット 「岐阜市の取り組み」 (自作資料) VTR「乗船前鶴飼い説明」 新聞記事「自費留学で英会話を学ぶ船頭さん登場」</p> <p>援助：自分の立場を明確にできるよう、それぞれの考えの長所、短所をみつけるよう助言する。</p>
		鶴匠さんは世襲制で古くからの伝統を守るために努力しているし、お客さんのニーズに合わせた工夫もしている。船頭の沢田さんは、外国語を勉強して何を伝えたかったのだろう。		